

被災地方言会話集

－ 宮 城 県 宮 城 郡 七 ヶ 浜 町 －

＜自由会話＞

自由会話の概要

収録地点 宮城県宮城郡七ヶ浜町

収録日時 2012（平成24）年7月19日

収録場所 宮城県宮城郡七ヶ浜町吉田浜

話題 【震災のときのこと】

話者

A	男	1934（昭和9）年	（収録時78歳）	[Bの遠い親戚]
B	女	1931（昭和6）年	（収録時81歳）	[Aの遠い親戚]

話者出身地

A	七ヶ浜町花湊浜（ハナブチハマ）
B	七ヶ浜町花湊浜（ハナブチハマ）

【震災のときのこと】

話し手

A 男 1934 (昭和 9) 年 (収録時 78 歳)

B 女 1931 (昭和 6) 年 (収録時 81 歳)

001A : アノネー、チョード アッカリナ [1]、コノ フロ アルスペ。 コノ
あのね、 ちょうど アクアリーナ、 この 風呂[が] あるでしょう。この

アッカリナッテ ユー。

アクアリーナって いう。

002B : アー イキラク [2] ネ。 ソコノネー。 (A ネー) ハイ。

ああ 亦楽ね。 そこのね。 (A ねー) はい。

003A : コゴサー ヨッカメニ ニューカイ スタダゲネー、 (B シー シー シー)
ここに 4日目に 入会 したんだけどね、 (B うん うん うん)

イジネンブヌ ニューカイキン カッテ、 (B ハイ ハイ ハイ) ヨッカメニ
1年分の 入会金[を] 買って、 (B はい はい はい) 4日目に

ヒガイ ウゲマシタ。ソレデネー、ヒトバシ ハエグ イッタ タメニネ、
被害[を] 受けました。それでね、 ひとバス 早く 行った ためにね、

(B シー) フタリシテ オンナノ カダド キッタダゲントネー、

(B うん) 二人で 女の 方と 来ていたんだけどね、

(B シー) ソノヒト カダイデワ ナイ ナインダゲントモネー。

(B うん) その人 家内では ×× 無いんだけどね。

ヒトリヒト オイデ ワダシガ サイショ カエッタワゲワー。

1人[の]人[を] 置いて 私が 最初[に] 帰ったわけよ。

004B : ウジニ。

家に？

七ヶ浜町 自由会話

005A : ウジニ。 (B フーン) ソシタラ ワダシワ ジュンチョーニ
家に。 (B ふーん) そうしたら 私は 順調に

ウジニ カエッタノネ。 (B ハイ) アドノ バーシガ ソーユー サイナンニ
家に 帰ったのね。 (B はい) あとの バスが そういう 災難に

アッテ シマッタワゲネ。 (B アー) ダガラ ソノヒトガ ドゴデ
遭って しまったわけね。 (B あー) だから その人が どこで

アッタガモ ワダシワ シラナイシ。 (B イッショニ キター) ウ
[災難に] 遭ったかも 私は 知らないし。 (B 一緒に 来た) ×

イッショニ イツツモ キッタダゲンツトモサー。 (B ソノカタ) ナ
一緒に いつも 来ていたんだけどもさ。 (B その方) ×

ナゼガ ソノヒニ カギッテ ワダシダゲ ハエ ハエグ カエッテ
なぜか その日に 限って 私だけ ×× 早く 帰って

シマッタノワ。 (B アー ソーナンダ。 ホーン) ホシテネー オヒル ク、
しまったのよ。 (B あー そうなんだ。 ふーん) そしてね お昼 食う、

ゴハン タベデル ウジニ、 (B ンー) オレ ナガナガ ネラエンネ
ご飯[を] 食べている うちに、 (B うん) 私[は] なかなか 寝られない

ホーダガラ、アンターザイリョ オレ ノムガラ、カナラズ。 (B アー
方だから、 安定剤 ~~~~~ 私[は] 飲むから、必ず。 (B あー

ヤスムノニネー) ンー ンー。 (B ンー) オシー コノ (B ンー)
休むのにね) うん うん。 (B うん) そして この (B うん)

ワダシモ シンチクシタ バッタガラ。 ウジモネー、ログネンシカッテ
私も [家を]新築した ばかりだから。うちもね、 6年しか

ナンネガラー。ソゴサ ヨゴダ ナッテダラバー、 (B ンー) ソノトスニ
ならないから。そこに 横~~~~~ なってたら、 (B うん) その年に

七ヶ浜町 自由会話

ノーコーソグ オゴシタンダナ。(B アー) ソノマエノ トシ。
脳梗塞[を] 起こしたんだな。(B あー) その前の 年。

(B Aサンガネ) ジューイジガズ。(B ア ソー) ン。 ノーコーソグ
(B Aさんがね) 十一月[に]。(B あ そう) うん。脳梗塞[を]

オゴシテルガラ、(B ンー) イツモ コノ、アノー ツグエノ ウエサー
起こしているから、(B うん) いつも この、あの 机の 上に

クスリダゲ オイッタンダナー、ニューボーワサー。(B ハイ ハイ) ンー。
薬だけ 置いていたんだな、女房はさ。(B はい はい) うん。

(B ハイ) オレデー、ニゲロー、ジーチャン ニゲロツテ イワツテ、オレワ
(B はい) それで、 逃げろー、じいちゃん 逃げろって 言われて、私は

ニゲダグ ナガッダノネー。アシモ イダイスー、(B アー) ノーコーソグ
逃げたく なかったのね。 足も 痛いし、(B あー) 脳梗塞[を]

オゴシテルガラ。
起こしているから。

006B : アー。アルグノ タイヘンダッタ。
あー。歩くの 大変だった。

007A : ンー。(B ウーン) イガラ オレバ オイデゲワド。(B ンー)
うん。(B うーん) いいから 私を 置いていけよと。(B うん)

ンー。ソシタラ ムスコニ ナニカダル ジーチャンツテ。(B ンー)
うん。そしたら 息子に 何[を]言う じいちゃんって。(B うん)

ネー。(B ンー) トニカグ ニゲロー、ニゲロツテネ。
ねー。(B うん) とにかく 逃げろ、 逃げろってね。

トニカッ チノミチノママデ ニゲマシタ。(B アー ソーナノ)
とにかく 着の身着のまま 逃げました。(B ああ そうなの)

七ヶ浜町 自由会話

マッタグ サムガッタデス。ハタゲジマイデ ニゲダガラネー。
まったく 寒かったです。肌着一枚で 逃げたからね。

008B : アラ アラ アラ、ソレデワ サムガッダ。
あら あら あら、それでは 寒かった。

009A : ンー。オーデネ、ゲンカン デゲッドモ、ゲンカン ワリッダモノワ。
うん。それでね、玄関[に] 出るけれども、玄関[が] 壊れていたものな。

010B : アー ジシンデネ。
あー 地震でね。

011A : ンー ジシンデ。ハエグ ニゲレバ イガッタノネー。(B アー)
うん 地震で。早く 逃げれば 良かったのね。(B あー)

イーガラ オレバ オイデゲワッテ ユッタダガンネ。オレ、ホントニ。
いいから 私を 置いて行けよって 言ったんだからね。私、本当に。

(B ウー) ンー。ドーシェ アシモ ナオンネベガラワ。 オジ、
(B うん) うん。どうせ 足も 治らないだろうからさ。そして、

アダマダッテ ドーユンナッ、 ナンダガ ワガンネガラ、 (B ハイ
頭だっって どういう風になる、なるんだか 分からないから、(B はい

ハイ) トニガク オリバ オイデッタッテ カマネガラワッテ (B ンー)
はい) とにかく 私を 置いていったって 構わないからさって (B うん)

ユット、ヤッパリ コドモシテ オヤバ オガンネンダッチャ。
言うと、やっぱり 子供として 親を 置いていけないんだよね。

012B : ソーナンダヨネー。ソレナンダヨネー。(A ネー) ンー。
そうなんだよね。それなんだよね。(A ねえ) うん。

013A : ソシ ムリムリ ツレデヤッテネ。アノ チーサイ クルマネー、
そうして 無理やり 連れて行ってね。あの 小さい 車ね、

七ヶ浜町 自由会話

オーキーノド オラエニ サンダイ アッタッチャー。(B ハイ ハイ ハイ)
大きいのと 私の家に 3台 あったでしょう。(B はい はい はい)

イジバン チーサイ クルマ、アド ワガイ シタジ フタリ (B シー)
一番 小さい 車[に]、あと 若い 人たち[が] 2人 (B うん)

クルマ (B シー) モッテルゲット、(B シー) ワゲシタジ カギ
車 (B うん) 持っているけど、(B うん) 若い人たち[が] 鍵[を]

モッテルガラ、 オトサン マワサンネワゲサナー。
持っているから、お父さん[が] [車を]運転できないわけだな。

(B ア ナルホド) シー。(B フン) オーシテ チーサイ クルマサ
(B あなるほど) うん。(B ふん) そうして 小さい 車に

ジューニン イレデヨ、ミゼット [3] サ。(B エー) シー。オレ
12人 入れてさ、ミゼットに。(B えー) うん。私は

マゴモ イルガラネ。(B ハイハイ) トージノマゴッチャー (B ハーイー)
孫も いるからね。(B はいはい) の孫 (B はい)

ヤッカリデ (B ハイハイ) シー。ヒマゴネー。(B ハイ) ソレ ナントガ
部屋借りて (B はいはい) うん。ひ孫ね。(B はい) それ なんとか

フラッテ。(B うん) ユーグネー、アノ シャダグオ カリッタヤズ、
拾って。(B シー) よくね、 あの 社宅を 借りていたやつ、

アノ ロータリー カリッタンダゲットモ、
あの ロータリー[の近くの社宅を] 借りていたんだけども、

ツブレナイデサー。
つぶれないでさ。

014B : ドゴ、ドゴンドゴ。
どこ、どこのところ？

七ヶ浜町 自由会話

015A : タイシン [4] ノ。
大進の。

016B : タイシンノ。(A ンー) アー (A アノ ロータ) X1サンノ ソバネ。
大進の。(A うん) あー (A あの ×××) X1さんの 側ね。

(A ンー) アー ハイ ハイ。
(A うん) ああ はい はい。

017A : アズックガネー、(B ンー) クルマモ アル コドモダジ オッテ
あそこがねー、(B うん) 車も ある 子どもたち 置いて

キタンダデバー。(B アラーー アラーー) ンバ ナントガネー、
来たんだってば。(B あらー あらー) ×× なんとかね、

コドモダジオ ミナ スグッデ ギダノネー。
子どもたちを 皆 救って 来たのね。

018B : ンー ンー。ヨガッタ ヨガッタ。ンー。
うん うん。良かった 良かった。うん。

019A : オシテ アノ ドーロガ カンボズ スネガラ イガッタんだヨ。
そして あの 道路が 陥没 しないから 良かったんだよ。

(B ソーナンダネー) アノ ドーロガ カンボズ スタラネー、
(B そうなんだね) あの 道路が 陥没 していたらね、

ナンボ タガヒルマダッテ (B ンデモ トー ソー) ミンナ
どれだけ 真昼間であっても (B それでも ×× そう) 皆

ナグナッタヨ。
亡くなったよ。

020B : ソー ソー ソー。トーレナイモノネー。
そう そう そう。通れないものね。

七ヶ浜町 自由会話

021A : トーレナイガラネー。(B ウーーン) ンー。オーシテ コンド オラ
通れないからね。(B うーん) うん。そして 今度 ほら

ミーライスー [5]、ミッコリアサ イッテネー、(B ハイ ハイ)
姪の家に、 姪っ子の家に 行ってね、(B はい はい)

タガイガラ。(B ンー) アソゴサ イッテ オシェワナッタゲットネ、
高いから。(B うん) あそこに 行って お世話になったけれどね、

オーレガ コンド グエワリシ、サムイシサー。(B サー ナルホド)
私が 今度 具合悪いし、寒いしさー。(B あー なるほど)

ジーチャンバリ スッカリ ソロツテラッタノサ。(B フーン)
じいちゃんばかり すっかり 揃っていたのさ。(B ふーん)

ホントニネー。コドモダジワー
本当にね。 子どもたちは

022B : アノ X2チャンノ ウジサ ヒナン シタノスカ。
あの X2ちゃんの 家に 避難 したのですか?

023A : ンー。ミッコライ タガイガラ、 オラ。(B アー
うん。姪っ子の家[は] 高い[ところにある]から、ほら。(B あー

ヨガッタネ。ハイ ハイ。ソーネ。ウーーン) オンデ
良かったね。はい はい。そうね。うーん) それで

ユギップリダスッペヤ。ナンニモ ミエナイッテ ユワレルッペス。
雪が降っているでしょう。なんにも 見えないって 言われるし。

024B : ホントダワ。アノドギワ
本当だわ。 あの時は

025A : オレワ フレデル イッポーダチャ、サムイモノワー。(B ンー。アラー)
私は 震えてる 一方だよ、 寒いもの。(B うーん。あー)

七ヶ浜町 自由会話

ネー カラダドモ ホントデワナイスー。(B シー シー) シー。
ねー からだも 本調子ではないし。(B うーん うん) うん。

026B : シー。 タイヘンダ。
うん。 大変だ。

027A : ソレガラ コンド ガッコエ、タイグカンサネ、ヒナンサレデ。
それから 今度 学校へ、 体育館にね、 避難させられて。

(B アー ソッカ。 シー シー シー) ダテ ネー。
(B あー そっか。 うん うん うん) だって ねえ。

028B : ヨーフグ ミナ ゼンブ キテイッタデシヨ。 ソノドギワネ。
洋服 みんな 全部 着ていったでしょう？ その時はね。

029A : シー。 ミナ ガラ。(B シー) シー。 ミンナ カサッテサー。
うん。 みんな ××。(B うん) うん。 みんな 貸されてさ。

トニカ アルモノオ ナンデモ キラシェラッタオンワキサワ。
とにかく あるものを 何でも 着せられたものってわけだよ。

(B ナ ソー ソー ソー ソー) シー。(B シー シー シー)
(B × そう そう そう そう) うん。(B うん うん うん)

オシテ タイクカンサ イッテ (B シー) ミッカグレ イダノガヤ。
そして 体育館に 行って (B うん) 3日ぐらい いたのかな。

(B シー) アド コクサイムラサ ヒナンサセデ モラッテ、(B シー)
(B うーん) あと 国際村に 避難させて もらって、(B うん)

ネー アサ シル バン、コーヒー オニギリ ケラッテネー。
ねー 朝 昼 晩、 コーヒー[と] おにぎり[を] もらってね。

(B シー) ナランデシャー。 ストリストリ ナランデネー。
(B うん) 並んでね。 ひとりひとり 並んでね。

七ヶ浜町 自由会話

(B ソーダヨネー) カダルド、コゴド カダル ヒトモ イレバ

(B そうだよね) 言うと、小言[を] 言う 人も いれば

030B : ンー。 キママダネ。

うん。 気ままだね。

031A : オレナ ナイゴドノッテネー。

私のは // // // // // // // //。

032B : キママダネー。(A ンー。) ホントダネー。(A ウー) ンー。

気ままだね。(A うん。) 本当だね。(A うー) んー。

033A : コンド ツギノ アサワネー、ヒャッコイノ。 アヅ ヒャッコイダッテ

今度 次の 朝はね、 [ご飯が]冷たいの。×× 冷たくたって

インダワ。 ハラ ヘッテッカラネー。(B ソーナンダネー)

いいんだわ。腹[が] 減っているからね。(B そうなんだね)

タベナイワゲニ イガネガラサ。(B ンー。ンー ンー) ホーシ

食べないわけに いないからさ。(B うーん。うん うん) そうして

ナントガナッタガラ マズ イギガエッテ キタンダナ、コーシテ ミット

なんかあったから まず 生き[て]帰って 来たんだな、こうして みると

ネー。(B ウーーン) マズ ワダシラサ アデガッター、カシエダスタズモ

ねー。(B うーん) まず 私たちに あてがって、食わせた人たちも

タイヘンダベツトモシヤー。(B ソーダネー) マッタグ。イジバン ヒドイノ

大変だろうけどね。(B そうだね) まったく。一番 ひどいの

オシヨ オシッコダッタネ。(B アー ソーダッタネー) バシヨガ

××× おしっこだったね。(B あー そうだったね) 場所が

ナイガラサ。ンー。

無いからさ。うん。

七ヶ浜町 自由会話

034B : トイレ イチバンダッタヨネ。
 トイレ[が] 一番だったよね。

035A : トイレガ イヤ、オドゴヨリ オンナノ ヒトガ ヒドガッタベ。
 トイレが いや、男より 女の 人が ひどかったでしょう。

(B ンー。 ソー、ソーネ) マッタグ ホントニ。 ンー。

(B うーん。 そう、そうね) まったく 本当に。 うん。

(B ンー。 ダヨネ) ズガン チメラッテネー。 ホントニ。

(B うーん。 だよね) 時間[を] 決められてね。 本当に。

オドゴン シタジワネー、ヤマサ イッテモ _____。
男の 人たちはね、 山に 行っても _____。

036B : ンー ダネー。 オンナノ ヒトタチワ ドーシテモネー。
 うん そうだね。 女の 人たちは どうしてもね。

037A : ンー。 アーズ ソーシテ シノンデ キマシタネ。 オーシテー ヒナンシタ
 うーん。 まず そうして しのいで きましたね。 そして 避難した

シガズノ ニジューナンニジガ。 コンド ハイエン オゴシテシマッタ、
四月の 二十何日か。 今度[は] 肺炎[を] 起こしてしまった、

コンド。 (B アーララララ) ンー。 サンガズノ ジューイジニジノ ヒガ
今度。 (B あーらららら) うん。 三月の 十一日の 日が

ツナミ アッタガラネ。 コノヒガイ ウゲダノワネ。 (B ハイ ハイ
津波[が] あったからね。 この被害[を] 受けたのはね。 (B はい はい

ハイ)

はい)

ニジューサンネンノ。 コンド アノ サカビョーイン [6] ツレラレッテッテ。
二十三年の。 今度 あの 坂病院[に] 連れられて行って。

七ヶ浜町 自由会話

(B シー) ニジューハジニジ イッテキマシタ。ソゴニ。(B アーー)
(B うん) 二十八日[間] 行ってきました。そこに。(B あー)

シー シー。(B ソーナノ) シー。(B タイヘンダッタネー)
うん うん。(B そうなの) うん。(B 大変だったね)

アドネー、サカビョーインモネー、ソノトリーネー、(B シー) ツナミゴソ
あとね、坂病院もね、その通りね、(B うん) 津波こそ

ウゲナガッタゲント、(B ジシンデ) ズシンデ コワレッタワゲサワナー。
受けなかったけれど、(B 地震で) 地震で 壊れてたわけだわな。

(B デショーネー) ソンデモ オレ イッタ ドギワ イグラカ
(B でしょうね) それでも 私[が] 行った ときは いくらか

カイゼンシタンダッテ。ナオシテクレダダッテ。(B シー シー シー)
改善したんだって。直してくれたんだって。(B うーん うん うん)

アドノ スタジワ ヤッパリ ヒドガッタッテ、ニューインシッタ ドギワ。
あとの 人たちは やっぱり ひどかったって、入院していた ときは。

(B アーー) シー。(B シー) ネー。サンソ ツカウシトモ
(B あー) うん。(B うーん) ねー。酸素[を] 使う人も

アルスペヤ。
いるでしょう。

038B : ソーナン、ソレナンダヨネ。(A シー) デンキワ ナイシネ。(B シー)
そうなの、それなんだよね。(A うん) 電気は 無いしね。(B うん)

シー。
うーん。

039A : ソンデ ビョーインダガラネ、イグラガノ シズビ スエッカラシャー。
それで 病院だからね、いくらかの 設備[を] 据えるからさ。

七ヶ浜町 自由会話

(B シー シー) ウジアダリ ソーユー シズビモ ナニモ
(B うん うん) うちあたり そういう 設備も なにも

ナイガラワナー。シー。ダッテネー、シンダッテ モドモドダナード
ないからね。 うん。だってね、 死んだって もともとだなと

オモッダガラワサー。アノネー
思ったからさ。 あのね

040B : トシ トッタ ヒトワ ソーユー、スグニネー ソーユーコトバリ
年 取った 人は そういう、すぐにね そういうことばかり

カンガエデシマウモンネー。(A シー ダッテワ) ドーシテモネー、
考えてしまうもんね。(A うん だってさ) どうしてもね、

メンドー カゲダグナイドガ。(A ダッテネー) ナンカネー ホントニ。
面倒[を] かけたくないとか。(A だってね) なんかね 本当に。

041A : シー。オライノ ジーチャンラ ログジャーヨンサイデ
うん。私の家の じいちゃんなんて 六十四歳で

ナグナッタンダガラサー。(B ア) ソレ カンガエダラネー、トーモ
亡くなったんだからさ。(B あ) それ 考えたらね、 +[年]も

ヨゲー イギンダナード オモッタガラサー、(B イギマシター スカー。
余計[に] 生きるんだなと 思ったからさ、(B 生きました ですか。

ソنداヨネー) シアワシェダード オモッテシャー。(B ホントダネー)
そうだよね) 幸せだと 思ってさー。(B 本当だね)

ホントニ。シー。トニッカネ、 ショ シル、シルサンドノ ゴハンガ
本当に。うん。とにかくね、 ×× 昼、 昼三度の ご飯が

イッパイ ナンネノガ イジバン ヒドガッタネ。(B シー
[お腹]いっぱい[に] ならないのが 一番 ひどかったね。(B うん

七ヶ浜町 自由会話

シー シー) シー。
うん うん) うん。

042 B : ミズノ ナイノドネー。(A シー) ミズワ イジバンダッタヨネー。
水の 無いのとね。(A うん) 水は 一番だったよね。

043 A : シー。ドッカラモ、ミンナシテ、チョーダイ ヨッタリシテ ヤラッタガラ、
うん。どこからも、みんなして、兄弟 四人して やられたから、

ドッカラモ ホチュースル (B シー シー) シ シテケラレルモノ
どこからも 補給する (B うん うん) × してもらうもの

ナインダモノ。(B シー シー) シー。ツラガッタヨ、ホンットニネ。
無いんだもの。(B うん うん) うん。辛かったよ、本当にね。

シー。デモネー、オラワー コクサイムラッテ ユードゴ、 イードゴサ
うん。でもね、私は 国際村 [7] って いうところ、良いところに

ヒナンサシェラッタガラネー。(B シー) アドガラワネー。(B シー)
避難させられたからね。(B うん) あとからはね。(B うん)

シー。ソノツギ コゴエー ワダシガ キタドギ、
うん。その次 ここへ 私が 来た時、

コクサイムラガラ カゾ カゾグー コゴサ イテンシテチタ。
国際村から ×× 家族[が] ここに 移転してきた。

044 B : シー シー。カセツ デキタ ドギワ。
うん うん。仮設[が] 出来たときは。

045 A : ネー ミ (B シー) シー。ミッカマエ、ミッカ ナンダワッテ。
ねー × (B うん) うん。三日前、 三日[に] なるんだわって。

046 B : アー ココニネ。(A シー) シー シー シー。
あー ここにね。(A うん) うん うん うん。

七ヶ浜町 自由会話

047A : ンダガラ ヤッパリ コクサイムラヨリ キタドギ、アー チーサクテモ
だから やっぱり 国際村から 来た時、 あー 小さくても

ジブンノ ウジダナード オモッテネー。(B ソー ソー ソー ンー)
自分の 家だなーと 思ってね。(B そう そう そう うん)

アリガダイガッタネ ホントニ。ンー。
ありがたかったね 本当に。 うん。

048B : ダッテ ヤスンデットギ、 ミンナ ダンボールダノ ナンダケットモ
だって [避難所で]休んでるとき、みんな 段ボールだの _____

(A ンー) カゴンデ。アレ カゴワナイホー カエッテ ヨカッタナト
(A んー) 囲んで。 あれ 囲わないほう[が] かえって 良かったなど

(A ンー) オモートキ アッタワネ。(A ンー)
(A うん) 思う時 あったわね。(A うん)

049A : ダガラネー、(B ンー) イマダニネー、(B ンー) トナリチンジョモネー、
だからね、(B うん) いまだにね、(B うん) 隣近所もね、

ヤッパリ ワガンネヨナ アリサマデス。(B ンー) ンー。
やっぱり 分からないような 有様です。(B うん) うん。

宮城県宮城郡七ヶ浜町方言会話集（自由会話）注記

- [1] アッカリナ
アクアリーナという七ヶ浜にある健康スポーツセンターのこと。
- [2] イキラク
亦楽（いきらく）という、七ヶ浜半島中央部の地名。上記アクアリーナがある。
- [3] ミゼット
車の名前。
- [4] タイシン
七ヶ浜にある会社の名前だが、ここではその社宅を指している。
- [5] ミーライス
「姪っ子の家に」の意と思われる。続く「ミッコリアサ」も同様の意と考えられる。
- [6] サカビョーイン
塩竈市にある、坂総合病院のこと。
- [7] 国際村
七ヶ浜国際村のこと。七ヶ浜町花湊浜にある文化施設。

宮城県宮城郡七ヶ浜町方言会話集（自由会話）担当者

- 収録担当者** 武田 拓（仙台高等専門学校准教授）
 坂喜 美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
 伊藤 友香（東北大学文学部3年）
- 文字化担当者** 坂喜 美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
 伊藤 友香（東北大学文学部3年）